

令和元年6月17日現在

機関番号：32682
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2016～2018
 課題番号：16K01201
 研究課題名(和文) 大学と地域社会の連携による生涯学習拠点としての地域博物館再生に関する実践的研究

 研究課題名(英文) The Practical Research on Regeneration of the Local Museum as the Lifelong Learning Base by Cooperation between the University and the Local Community

 研究代表者
 吉田 優 (YOSHIDA, Masaru)

 明治大学・文学部・専任教授

 研究者番号：90267360
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は茨城県猿島郡境町を対象地域として、学芸員養成課程の教員・受講生が地域社会と連携・協力し、博物館を地域の生涯学習拠点として継続的に活用できるような環境作りを行うことにあった。
 研究成果としては、地域住民を中心とした境町歴史民俗資料館運営ボランティア「下総さかい河岸の会」の設立と学習会を開催。大学の学芸員養成課程受講生が現地の博物館に赴き、資料調査・展示作成を行う調査合宿の実施。境町歴史民俗資料館の所蔵する民具すべての再調査と常設展のリニューアルの実施。そして、これらの成果を取りまとめた成果報告書の刊行が挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、大学の学芸員養成課程の教員・受講生が地域住民と連携して地域博物館を再生し、生涯学習拠点として継続的に活用できるような環境作りを行うことである。学芸員不在等で活動停止状態の博物館を生涯学習の拠点として活性化させることは極めて有意義であると考えられる。一方、大学の学芸員養成課程受講生にとっては、実際の学芸員業務を体験できる機会であり、総合的知見を要する博物館学芸員の育成に極めて有効に作用することが予想される。
 以上、本研究は地域および地域住民と学芸員養成課程受講生双方にとって有益な活動を実践するものであり、今後の地域博物館と大学の学芸員養成課程の連携・協力のモデルケースとなることが期待できる。

研究成果の概要(英文)： This research targets the area of Town of Sakai, Sashima-gun, Ibaraki Prefecture, teachers and students in the curator training course associate and collaborate with the local community and create an environment in order to utilize the museum continually as a lifelong learning base in the area.
 As a result of research, 1) the establishment of Town of Sakai History Folklore Museum management volunteer group, "Shimousa Sakai riverside association", organized mainly by local residents and the study meeting are held. 2) the investigation the materials and creating exhibition of the local museum by the university students in the curator training course visiting and camping there. 3) the examination of all materials held by the Town of Sakai History Folklore Museum and renewal of the permanent exhibition. 4) the publication of the result report which put together these results is mentioned.

研究分野：博物館学 日本史学

キーワード：歴史系地域博物館 博物館再生 生涯学習 まちづくり

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

地域博物館は、昭和時代後半から平成時代にかけて数多くの自治体が設置してきたが、現在の社会状況においては自治体の地域博物館にける予算は減少の一方であり、当初学芸員が置かれていた博物館においても、学芸員の削減、あるいは学芸員退職後に補充しないケースが増え続けている。これらの博物館では所蔵する資料の調査・研究はおろか展示・教育まで滞ってしまうこととなり、結果的に多くの博物館は建物だけの“豪華な物置”と化してしまっている。一方で、地域博物館が地域社会と向き合うことの必要性は従来から指摘されてきた(歴史学と博物館のあり方を考える会設立十周年記念誌『現場から』、2001年)。この点に関して代表研究者である吉田優は、機会のある度に地域住民を博物館に巻き込むことの必要性を説いており(「地域博物館の展示調査研究」『明治大学学芸員養成課程紀要』20 2009年などを参照)、平成24年度から基盤研究(C)「アンケート調査に基づく歴史系地域博物館展示・設備の実践的研究」を取得し、地域住民の博物館に対する要望を収集・分析したうえでの実際の展示活動と、地域住民が自らの関心に応じて地域の事物を研究・学習できる設備を設けることで、住民を博物館へと呼び込むことを意図した研究を行ってきた(研究成果については『アンケート調査に基づく歴史系地域博物館展示・設備の実践的研究 平成24年度～平成26年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C))研究報告書』参照)。

また、伊藤寿朗氏が、市民自らの表現によって生活を築き、切り開いてゆくことができる力量育成の機会を保障・援助することが地域博物館の役割であると述べているように(伊藤寿朗『市民のなかの博物館』吉川弘文館、1993年)、地域住民が自主的に研究・学習をするための、生涯学習の拠点としての役割を地域博物館が持つことも、地域住民を博物館に巻き込むためには重要であると考え。そこで、“豪華な物置”と化した地域博物館を大学の学芸員養成課程と地域社会の連携・協力によって地域の生涯学習拠点として活性化させることを目的とした【大学の学芸員養成課程と地域社会の連携・協力による地域博物館の生涯学習拠点化を目的とした実践的研究】を思い立った。

2. 研究の目的

本研究は茨城県猿島郡境町を対象地域として、学芸員養成課程の教員・受講生が地域社会と連携・協力し、博物館を地域の生涯学習拠点として継続的に活用できるよう環境作りを行うことにあった。大学学芸員養成課程の教員・受講生が現地の博物館に赴き、地域住民と協力して展示活動等を行い、博物館を地域の生涯学習の拠点として活性化させることで、地域および地域住民と学芸員養成課程の受講生双方にとっての有益な活動を実践するものであり、今後の地域社会・博物館と大学の学芸員養成課程の連携および地域社会と向き合える学芸員育成のモデルケースとなることが期待できるというねらいがあった。

以上のように、地域における出前講座の実施と住民組織の設立・運営を通じ、学芸員養成課程の教員・受講者と地域社会が連携・協力することで【発展的継続可能な地域博物館の再生と生涯学習拠点としての環境づくり】を行い、併せて【地域博物館を活動拠点とした博物館実習の総合的展開】をはかることが研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は茨城県猿島郡境町を対象地域として、学芸員養成課程の教員・受講生が地域社会と連携・協力し、博物館を地域の生涯学習拠点として継続的に活用できるよう環境作りを行うことにあり、本研究が取り組むべき課題は以下になると考えられた。

- 1) 地域住民の博物館活動への誘致・参加
 - ・小・中学校への出前講座の実施と「プレ学芸員」体験
 - ・博物館を生涯学習拠点とした住民組織の設立
- 2) 学芸員養成課程受講者の博物館活動への参加
 - ・境町歴史民俗資料館所蔵資料の整理・調査
 - ・地域学習のためのリニューアル展示制作
- 3) 生涯学習拠点としての博物館づくり
 - ・地域住民による展示制作(町おこし展示)
 - ・歴史民俗資料館での展示(企画展および常設展リニューアル展示)
 - ・講演会およびシンポジウムの開催

本研究の学術的な特色・独創的な点は、大学の学芸員養成課程の教員・受講生が現地の教育委員会・地域社会と連携し、活動不能に陥っている地域博物館を再生し、生涯学習拠点として継続的に活用できるよう環境作りを行うことである。予算不足等で学芸員不在の地域博物館は全国に多数存在する。こうした博物館を生涯学習の拠点として活性化させることは極めて有意義であり、本研究はその方策を提供するものである。

一方で、大学の学芸員養成課程の受講生にとっては、課程中に実際の博物館学芸員業務を体験できる機会は博物館実習など限られた時間ではない。そのため、本研究の活動は総合的知見を必要とする博物館学芸員の育成に極めて有効に作用することが予想される。本研究は、地域および地域住民と学芸員養成課程の受講生双方にとって有益な活動を実践するものであり、今後の地域博物館と大学の学芸員養成課程の連携・協力のモデルケースとなることが期待できる。そして、地域住民と学芸員養成課程の教員・受講生の連携・協力によって作り上げられた展示

は、多くの地域博物館が共通して所蔵する考古・文献・民俗資料を展示に活用するうえでの一つの具体案を提供し、地域博物館展示の指針になると考えられる。

4. 研究成果

(1) 境町歴史民俗資料館運営ボランティア「下総さかい河岸の会」設立とその活動

前述したように、学芸員不在の地域博物館を生涯学習拠点として活性化させるためには、博物館を中心とした住民組織の設立が必要不可欠と考えた。そのため、境町歴史民俗資料館においても住民組織の設立と研究終了後も住民組織による生涯学習拠点としての博物館活動などが継続できるための学習と運営体制の確立を行うべきであると考え、本研究の初年度である平成28年度に境町歴史民俗資料館運営ボランティア「河岸の会」を設立した。

「河岸の会」の特色は、一般の方以外に境町の職員が多く参加していることである。教育委員会以外の職員が多く参加しており、資料館の活用についても教育以外の視点から多くの意見が出されている。

「河岸の会」では、本研究終了後も会が中心となって資料館運営ができるように、境町の歴史や学芸員業務に関する学習会を月1~2回ペースで、講師は吉田優・野村正昭が中心となって行った。「河岸の会」は本研究終了後の平成31年度以降も継続され、学習会も野村が中心となって行われる予定である。

(2) 出前講座

地域博物館にとって小中学校の団体見学は見学者数の大きな割合を占めることが多く、境町歴史民俗資料館でもそれは同様であった。いうまでもなく博物館は社会教育施設であり、特に地域博物館は、小中学校の社会科教育に役立つ施設であるべきであろう。

小中学校への出前講座は、団体見学で資料館を訪れる小中学生に、事前に境町の歴史や資料館の展示物を理解してもらい、学習の援助につながればと思い実施した。出前講座は、境町の町史編さんに参画した野村正昭と古河歴史博物館で多くの小中学校に出前講座を行っている立石尚之が担当した。

出前講座については、「河岸の会」学習会でも報告されており、将来的には「河岸の会」のボランティアが出前講座をサポートできる体制を整えることも視野にしている。

(3) 町民祭への参加及び講演会の実施

境町歴史民俗資料館の存在を地域住民に知ってもらうことが必要であるとの考えから、境町町民祭（資料館に隣接する文化村を中心に行われている）に連動して「歴史民俗資料館体験講座」を催した。町民祭に訪れた地域住民に少しでも資料館に目を向けてもらうことをねらった催しである。体験講座には「河岸の会」（結成以前は有志）にも参加してもらい、チラシの配布や受付などを手伝っていただいた。

また、境町の生涯学習フェスティバルにあわせて歴史講演会も開催し、境町歴史民俗資料館の周知を図った。

(4) 学芸員養成課程受講者による資料調査・展示作成合宿

学芸員養成課程受講者による資料調査・展示作成合宿は、本研究における重要な位置を占めるものである。学芸員養成課程受講者が、実際の博物館施設を用いて、資料の調査・保管・展示の作成まで携わる機会はほぼ皆無であり、合宿に参加した受講者にとってこのような経験は、大きな財産になったと考えられる。合宿中に毎晩行われたミーティングでも参加者からそのような意見が出されており、十分な成果が挙げられたと自負している。

(5) 境町歴史民俗資料館展示リニューアル及び記念講演会の実施

本研究の集大成として、「河岸の会」との共催で境町歴史民俗資料館の展示リニューアルを行い、記念講演会も開催した。また、特別展示として現在調査中の冬木貝塚出土縄文人骨の一部を五霞町教育委員会のご厚意でお借りして《特別展示》としてリニューアルイベント期間中（10月7・8日）展示した。

境町歴史民俗資料館展示リニューアル

《特別展示》

猿島郡のご先祖様～猿島郡にいた縄文人 冬木貝塚出土人骨～

《企画展示》

さしま茶のすべて～猿島茶の歴史とおいしいお茶ができるまで～

《常設展》

(1階コーナータイトル)

- ・古代のくらし
- ・境河岸の発展
- ・水とのたたかい
- ・境を訪れた人々
- ・新しい時代への幕開け
- ・境町の「いま」

(2階コーナータイトル)

- ・境の生業（稲作）
- ・境の生業（漁労）
- ・境の生業（たばこ・かんぴょうなど）

- ・商家のくらし
- ・人びとのくらし
- ・境のよそおい

展示リニューアル記念講演会

日 時 平成 30 年 10 月 7・8 日 13:00 ~ 16:00

会 場 文化村公民館 講堂

10 月 7 日

- 「幕末の境と明治維新」(野村正昭)
- 「縄文人骨が伝えてくれるもの」(真家和生)
- 「利根川と妖怪」(立石尚之)

10 月 8 日

- 「境河岸について」(吉田 優)
- 「関宿城と北条氏照」(小野真嗣)
- 「境の生活と文化」(加藤紫識)

(6) 成果報告書の刊行

本研究を社会に広く発信するため、研究成果報告書『大学と地域社会の連携による生涯学習の拠点としての地域博物館再生に関する実践的研究』を刊行した。報告書の目次は次の通りである。

- ・吉田 優「はしがき」
- ・小野真嗣「研究の成果と概要」
- ・野村正昭「境町歴史民俗資料館リニューアル事業に参画して」
- ・小林聖夫「小学校での歴史系地域博物館活用 史資料の扱いを軸に 」

[付録画像]

- ・出前講座
- ・境町歴史民俗資料館資料調査合宿
- ・展示リニューアルオープンポスター・チラシ
- ・展示リニューアル内容
- ・展示リニューアル記念講演会

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 4 件)

小野真嗣、博物館未設置地域における博物館普及教育活動の実践と成果、明治大学学芸員養成課程紀要 28、査読無、2017、15-27

吉田優、「第 14 回日本の地域博物館シンポジウム」を振り返って、明治大学学芸員養成課程紀要 32、査読無、2017、1-2

吉田優・小野真嗣、大学の生涯学習講座における博物館普及教育活動の実践研究、明治大学学芸員養成課程紀要 29、査読無、2018、21-34

小野真嗣、地域博物館の限界と再生 吉田優の地域博物館論と取り組みについて 、明治大学学芸員養成課程紀要 30、査読無、2019、49-58

[学会発表] (計 1 件)

吉田優、中山道と地域研究 長和町長久保宿本陣の文献調査から 、第 14 回全国歴史の道会議長野大会、2018 年 11 月 23 日、下諏訪総合文化センター (長野県諏訪郡下諏訪町)

[図書] (計 1 件)

吉田優・小野真嗣・野村正昭・小林聖夫、吉田優研究室、大学と地域社会の連携による生涯学習の拠点としての地域博物館再生に関する実践的研究 平成 28 年度 ~ 平成 30 年度文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書 、2019、65

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：真家和生

ローマ字氏名：MAIE, Kazuo

所属研究機関名：大妻女子大学

部局名：家政学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 30157119

研究分担者氏名：小野真嗣

ローマ字氏名：ONO, Shinji

所属研究機関名：和洋女子大学

部局名：人文学部

職名：助教

研究者番号(8桁): 20584444

(2)研究協力者

研究協力者氏名：立石尚之

ローマ字氏名：TATEISHI, Takayuki

研究協力者氏名：野村正昭

ローマ字氏名：NOMURA, Masaaki

研究協力者氏名：鳴瀬麻子

ローマ字氏名：NARUSE, Asako

研究協力者氏名：加藤紫識

ローマ字氏名：KATO, Shinobu

研究協力者氏名：中谷仁美

ローマ字氏名：NAKAYA, Hitomi

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。